



# 2015-2016年度 広島北ロータリークラブ週報

世界へのプレゼントになろう

国際ロータリー会長 K.R.“ラビ”ラビンドラン 氏  
国際ロータリーテーマ

Be a Gift to the World  
世界へのプレゼントになろう

■会長 山下 正司 ■幹事 上河内 裕司  
事務局 広島市南区松原町 1-5 ホテルグランヴィア広島 6F  
TEL 082-506-0050 FAX 082-506-2530  
E-Mail:hnrc@world.ocn.ne.jp URL http://www.hnrc.jp/  
例会 毎週木曜日 12:30 ホテルグランヴィア広島

■本日の例会	2016年2月18日(木) 第2258回
ロータリーソング	「われらの生業」
来客紹介	親睦委員会
連続出席表彰	
会長時間	
幹事報告	
委員会・同好会報告	
ニコニコ箱	
卓話時間	『他では言えないテレビの裏側』 HOME Jステーション コメントーター 西田 篤史 氏

有難うございました。まずはお礼を申し上げます。  
さて、今月は「平和と紛争予防/紛争処理月間」となっています。  
そこで、今日はこのテーマに相応しい卓話を上野会員にお願いしております。

戦争のない平和な世界を皆が望むところですが、世界中の様々な地域で無差別に行われるテロや虐殺などどうしても防ぐことのできないニュースに触れる度に、心が痛み何も解決に導く事の出来ない無力さにただただ愕然と傍観していいものなのでしょうか？

世界中で起きている紛争の予防について少しでも私たちが働かかける事が出来るのでしょうか？たった30分のわずかな時間でもこの事について考えてみては如何でしょう。

紛争とは違いますが、先週の3RCの会長時間でも報告させていただきましたネパールへの使い捨てカイロの支援の話ですが、中に私の説明不足で勘違いをされておられるようなので再度申し上げます。この支援につきましては、暖を取る為の使い捨てカイロとアルミシートを現地に送るのですが、現物を皆さんから集めるのではなくあくまでも現金による支援ですでお間違えの無いように改めてお願い致します。

## 前回の例会 2016年2月4日(木) 第2257回

国会斉唱	
ロータリーソング	「奉仕の理想」
来客紹介	親睦委員会
会員誕生日お祝い	
会長時間	
幹事報告	
委員会報告・同好会報告	
ニコニコ箱	
卓話時間	『私の平和論』 上野 淳次 会員

## 幹事報告 幹事 上河内裕司

\*ネパール大地震被災者支援事業寄付についてのお願い  
\*本日予定しておりました「歴代正副幹事会」は開催を延期します。  
\*ロータリー米山記念奨学会及びロータリー財団の確定申告用領収書を郵送しました。  
\*ロータリーの友誌、ガバナー月信、地区大会特集号、\*抜粋のつづり(BOX配布)

## 誕生日お祝い



左から、塩本(千)会員・二井本会員・水野会員・渡部会員・原田会員  
おめでとうございます！

## 委員会報告

### 財団プログラム委員会 佐々木委員長

本日の食事は100万\$の食事となっております。差額はポリオに寄付をさせていただきます。

ポールハリス・フェロー表彰  
深川 泰志 会員



## ニコニコ箱

## ニコニコ委員会

### 《自主出宝》

山下(正)会員・東会員・上河内会員・藤田会員・吉永会員

先日の陵北・安佐・広島北3RC合同夜間例会&懇親会では、石田理事、越智委員長他、委員会メンバーのお陰をもちまして、楽しい会となり多くの皆様と懇親を深めることができました。ありがとうございました。

## 会長時間 会長 山下 正司

皆さんこんにちは。先週の3RC合同夜間例会と懇親会では沢山の会員に参加頂き、また、親睦委員会の皆さんには骨折り頂きまして

**中山会員** 次年度ガバナーの田原榮一様より国際協議会の地「サンディエゴ」からのお手紙を頂きました。次年度のRI会長テーマは「人類に奉仕するローター」です。

**高原会員** 先日、下関で行われました同期ガバナー補佐の集まりに出席し大変楽しい一日を過ごすことが出来ました。

**高原会員**◇ 先日、小生の健康診断があり、結果は昨年同様に異常なしとの事でした。今年一年元気で過ごせそうです。

**久保(雅)会員** 小河さんの御息の高校受験合格おめでとうございます。江田島から東雲まで毎日送り迎え御苦労様でした。

**原田会員**◇ 今日で79才となりました。原爆を潜り抜け、79年も行かされたのは皆様のお陰と感謝しております。

**大之木会員**◇ 1月末の総会の後、役員会にて社長を退任しました。引き続き副会長として暫くの間頑張るつもりですが、気分は非常に楽になりました。今後とも宜しくお願い致します。

**二井本会員** 本日は誕生日のお祝いを頂き、ありがとうございます。

**岡部会員** 先週3RC合同例会の後の3次会一緒にいた6名の会員の内、5名がインフルエンザ感染。私だけが助かりましたが、本日の歴代正副幹事会が延期になってしまいました。感染した次年度副幹事の丸本・小林に変わらしてお詫び申し上げます。

**佐々木会員** 水野会員、お誕生日おめでとうございます。亡き父と友人でしたので、水野下院とお会いするといつも父親を思い出します。いつまでもお元気でいらっしやってください。

当日計 18,000 円(内、web5,000 円) 累計 930,400 円

★=10,000 円 ☆=5,000 円 ◆=3,000 円 ◇=2,000 円

卓話時間

『私の平和論』

上野 淳次 会員

戦後教育の最大の失敗は、平和と戦争を善悪論で教えたことだ。つまり、平和が「善」で、戦争は「悪」という前提である。戦争で負けたことよりも、戦争をしたことが悪いことだと教えたのである。



日本は、先の大戦で敗れて以来、昭和27年4月28日まで6年8か月の間、GHQ(占領軍総司令部)の統治下に入り、米軍による日本占領政策が実施された。

アメリカは、日本を二度と戦争させないようにするために、東京裁判の後、日本人の精神に至るまで徹底的に改造したのである。これが「ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム(WGIP)」だ。ここに至って、日本人自身の自虐史観の完成を見たのである。典型的な例が、「過ちは繰返ませぬから」という原爆死没者慰霊碑の碑文である。英文の「We shall not repeat the evil.」の「evil」は、「戦争をした」ことなのか、「原爆を落とした」ことなのか、どちらなのだろう。「戦争した」ことであれば主語は日本人で、「原爆を落とした」のであれば主語はアメリカである。碑文作者の雑賀忠義元広大教授は、過ちを「悪」、すなわち「戦争をした」ことだと述べた。

国際社会では、「平和」と「戦争」は対極にあるのではなく、「手段」と「目的」として捉えてきた。つまり、戦争は平和(目的)を達成するための手段として使われると考えてきた。

「戦争とは、他の手段をもってする政治の継続である」プロイセンの将軍クラウゼヴィッツは、自著の「戦争論」で述べているように、戦争は政治的判断の最終手段であった。

戦争とは、秩序が保たれないことである。秩序(平和)を保つため

に戦争をするのだ。つまり、戦争(紛争)を回避するために「話し合い」が行われるが、「話し合い」が決裂したために、戦争が起こるのである。

世界の常識は、戦争をしたから悪いのではなく、戦争に負けたから悪いのである。つまり、勝者が「善」で、敗者が「悪」なのである。

人類は戦争の歴史だった。宗教、人種、言語や国籍や水、エネルギーなどの様々な理由によって世界中に戦争の種は絶えない。従って、正しい戦争も正しくない戦争も存在しない。まして、平和が「善」で戦争が「悪」という図式も成り立たない。この世から戦争を回避できる方法を発見すれば、間違いなくノーベル賞ものだ。

戦争に関する国際法となっているハーグ陸戦規則もジュネーブ条約もウエストファリア条約も、戦争勃発の後、交戦者の資格、俘虜、戦闘における害敵手段、降伏、休戦、占領地における軍の権力などについて規定されており、いずれも戦争回避ではなく、戦争を想定してその後の処理について定められたものである。

つまり、紛争を防ぐために作られたものではなく、戦争のやり方と後始末について守るべき国際協定なのである。

結論から言うと、紛争を解決する手段は戦争しかない。戦争を回避する手段は抑止力しかないのだ。なぜなら、攻撃する方と同等戦力を持てば、攻撃は避けられるからである。(インドの国防省の大居室にはガンジーと原爆ドームの写真が並べて掲げられている)

作家の曾野綾子さんは「戦後の日本は子供に『理想』と『善』だけを教え、『悪』とは何かを教えてこなかった。平和という理想を唱えたり、『悪』の本質に目をつむっているのは、真の人間的な心は育たない」と、戦後の教育を批判している。

戦争に勝ったアメリカがたった一度だけ敗れた「日本」を、国際法に反してまで復讐的裁判で「悪」と決めつけ、そして自らを正義面する偽善を許してはならない。

碑文にあるように「日本が悪い」ということが正義であり、知性であるかのような愚かしいことを言う者は、歴史の事実をきちんと学んでいない人ということだ。

正義が必ず勝つのではなく、勝つことが正義につながる。勝つことがより正義面をするという、地球上の根本、原則を弁えなければならぬ。アメリカの原爆投下の言い訳がまさにその通りだ。

アメリカは、原爆投下を「戦争を早く終わらせるためだった」と一貫して言い訳をするが、誰が見ても日本の負け戦(いくさ)の末期状態に、「早期終結」のために原爆をそれも2カ所かつ2種類を使い分けて投下するということが、本当に合理的な話であろうか。まさしく人体実験である。これが人道上、正義なのだろうか。

「平和を守れ」などということ声を高く叫ぶ国民など、世界には他にいない。恒久平和が人類の夢であることは、幾多の戦争を繰返してきた諸外国も当然わかっている。ただ叫べば平和が来るほど世界の現実には甘くないということ、外国の人々は知っているのだ。

「憲法」のたった一条の条文で、本当に平和が維持されるのなら、世界の歴史はとっくに変わっていただろう。日本人は、「精神的カルタゴ」という骨抜き政策で物事をリアルに自分の頭で考える力を奪われたのだ。

■出席報告 出席委員会

2016年2月4日(木) 会員数 88名  
出席 75名 欠席 13名 来客 0名  
1月21日例会出席率 100%

■次週例会案内 2016年2月25日(木)

卓話 『今年のカーブ展望』  
野球解説者 達川 光男 氏